

## 平成30年度学校関係者評価報告書

東日本栄養医薬専門学校は、本校の目的および社会的使命を達成するため、教育活動の状況について、自ら行う点検及評価を実施し、さらに学校関係者評価委員会での評価を実施し、この報告書にまとめた。

基準 1	教育理念・目的
基準 2	学校運営
基準 3	教育活動
基準 4	教育成果
基準 5	学生支援
基準 6	教育環境
基準 7	学生の募集と受け入れ
基準 8	財務
基準 9	法令等の遵守
基準 10	社会貢献

平成30年6月16日

学校法人 山崎学園

東日本栄養医薬専門学校

## 基準 1 教育理念・目的

教育理念・目的については、栄養士学科、医薬学科共に定められ、パンフレット・募集要項・ホームページ等を使用し広く明示して、周知している。また、学校の特色として栄養士学科では、制約のある中、調理実習時間を拡充し栄養士本来の業務に必要な調理技術に止まらず調理の得意な栄養士を目指している。医薬学科は、薬に関する知識、販売技術等を机上の学問に止まらないようデュアルシステムを採用し、実務経験を積ませている。

## 基準 2 学校運営

学校運営については、姉妹校との協業で実施される学校行事を始め学校独自の行事も年度当初までに計画され実行されている。各行事には担当教員が配置され運営に当たっている。

人事や賃金に関する制度は、完全には整備されていない。教職員のモチベーション向上のためにも、信頼性、公平性のある人事考課と賃金制度の更なる整備が必要なのではないか。

## 基準 3 教育活動

各学科において、それぞれ、養成目的、資格取得、就職分野を明確にし、教育目標、教育活動は、関連する業界のニーズに的確に対応するよう情報収集や連帯に努めている。

栄養士学科は、厚生労働省の指定する栄養士養成施設としてのカリキュラムだけではなく、調理も出来る栄養士を目指してカリキュラム編成を行っている。

医薬学科は、登録販売者試験に合格する事のみならず、店舗運営に必要な知識・技能を身につけるためのカリキュラム編成を行っている。

## 基準 4 教育成果

両学科とも就職担当者と担任が連携して就職指導に当たっており、毎年高い内定率になっている。

栄養士学科は、2年間の成果として卒業と同時に栄養士の資格を取得することが出来る。また、希望者には介護食士などの資格取得も進めている。

医薬学科は、登録販売者試験の合格率が高いので、今後とも高い合格率が維持出来るよう工夫と努力をしてほしい。

## 基準 5 学生支援

担任制によるクラス運営がされており日常の指導も行われている。また、就職活動に関しても就職担当による就職指導・模擬面接指導等が実施されている

課外活動に関しても教職員を顧問として配置し、適正な運営が行われている。

保護者会を組織し、保護者会の活動を通じて保護者との連携を取る努力がされている。

## 基準 6 教育環境

清掃の行き届いた施設で勉強出来ているので、特に問題無いと思う。

施設設備は厚生労働省指定の栄養士養成施設の要件は満たしているものの、一部施設の老朽化が見られるので施設の更新を引き続き行い最新の教育施設での実習を心がけている。

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

パンフレットやホームページを通して入学希望者に必要な情報は提供されていると思う。また、広報担当者による計画的、組織的な募集活動が行われており、結果栄養士学科は定員を満たすことが出来ている。なお、医薬学科は定員を満たす事ができず今後とも一層の工夫と努力が必要と思われる。

## 基準 8 財務

財務状況が公開され経営の基盤が明確に示されている。また、財政基盤の安定のための業務執行および中長期的財政基盤についても安定していて安心できる。

会計監査は監査法人により適正に行われ、理事会、評議会に報告され適正な会計監査が行われている。

## 基準 9 法令等の遵守

栄養士養成施設としての法令や専修学校設置基準を遵守した適正な学校運営がなされていて特に問題は無いと認識している。

教育機関としての社会的使命を果たすためにも法令等の遵守については今後も継続的に取り組みたい。

## 基準 10 社会貢献

食文化の発信と、学生たちの学習の発表を目的に毎年学園祭を実施し、地域の方に多数参加していただいた。また、ボランティアサークルなどの学生主体のサークルが老健施設への慰問や各種イベントへの積極的に参加し食育等の啓発活動を行っている。

栄養士学科の教員は栄養士会に所属し、自分たちの研究成果を発表するなどしている。